



学校だより

狛江で育ち狛江一中で学んだことを生涯の誇りにできる生徒の育成

創立70周年2月号平成30年2月26日

狛江市立
狛江第一中学校

(早稲田大学連携協力校)

狛江市和泉本町2-15-1

TEL 03(3480)0121

生徒のみなさんへ～留学生の皆さんが「ともに」を聞いて～

校長 樋口豊隆

1月17日、4人の留学生が社会科で1年生と交流しました。

留学生のみなさんに「ともに」のCDを差し上げました。お二人の方が「ともに」の感想を送ってくださったので紹介します。

ガラハーニー・ファメテさん（イラン・一橋大学大学院生）

「とても素敵な曲で非常に感動しました。一人暮らしが多い社会等に孤独感や寂しさを感じる人が多いと思います。しかし、一人ではない、周りに家族や友達の皆がいると信じれば、孤独感や寂しさを乗り越えることができるのではないかと思います。皆との距離を縮めて、お互いを気遣い合って、悩みなどをお互いに話し合って、気持ちを表現できれば、誰も一人ではないでしょう。周りの人の存在感を尊敬して、その価値が分かれば、もう一人ではないということが分かるようになると思います。これで、星と月が見えるはっきりした空のお陰で、正しい道を歩んで更に幸せな生活が送れるのではないのでしょうか。これは、私がいつも信じている事であり、狛江第一中学校の生徒会の歌でも聞いて感じたことです。「WITH FRIENDS FOR FRIENDS」というモットーは素晴らしいことだと思います。」



チョ・ソヒさん（韓国・一橋大学大学院生）

「僕は最後に門をでたという歌詞がなぜか心に響きました。何か決意したのかな、この文章はどういう場面からきたのだろう。何を想像しているのだろうと気になります。」

1月17日、先生達を含め、みなさんの優しさが忘れられません。とても温かい学校でした。この歌にもその温かさがちゃんとでていますよね。みなさんと会えてとてもうれしかった。カムサハススムニダ。トボアヨ！ありがとうございました。ではまた！」



2月19日生徒会朝礼で生徒会長・牧野さんが話してくれたように平成27年1月、当時の生徒会役員は、「ホワイトリボン運動」をもっと上げたい。

そのためには歌を作ろう、歌を世界に届けることで世界中の「いじめ」をなくそう。そんな思いで「ともに」を制作しました。「ともに」を世界の人はどう感じるのか、今回、留学生のみなさんに感想を述べていただきました。

昨年の中高生フェスティバルで卒業生たちが「ともに」を狛江市に拡げる取組をしました。一人一人の力で「ともに」は拡がっていきます！！

1月31日（水）1年生保健体育「ダンス発表会」

プロダンサーS e r iさんの指導を受けて1年生がダンスの発表会を開きました。

保健体育科担当の遠藤葵先生から「音楽がかかると自然に体が動き出し、笑顔あふれる授業になりました。ダンスの発表を通し「安心して自分を表現できる仲間・場所」が増えたのではないかと思います。」との感想がありました。



2月4日（日）2年生 第9回中学生東京駅伝 味の素スタジアム 女子50位 男子41位

一中生12名が狛江の代表として挑んだこの大会。素晴らしい環境の中、狛江市代表チーム健闘の立役者となりました。狛江市男子チームの監督でもある吉田竜二先生からは「改めて、スポーツの力の偉大さ・素晴らしさに気付かされた1日となりました。特に、大舞台で力走する狛江代表の選手たちは、本当に素晴らしかったですし、「味の素スタジアム」は、TV中継、ゲスト、各地域の熱気、すごい雰囲気でした。何か月も前から選考会、練習会、各自の練習を重ね、選手たちは、あの雰囲気を肌で感じ、大きく成長できたと思います。今後の糧にして、頑張っって生活してほしいと感じています。また、応援に来て下さった保護者のみなさま、狛江の仲間、先生方、本当にありがとうございました。」との感想がありました。



2月5日（月）1年生 食育の授業 担当の吾郷先生より

「好き嫌いがあると思いますが、栄養士の方や調理の方が皆さんの健康を考えて作っているその思いを感じて日々の給食を味わってほしいと思います。」とのコメントがありました。



一中生頑張っています！

☆東京都教育委員会主催 防災標語コンクール 入選 1年 清重 さん

☆狛江市ごみ減量標語コンテスト 優秀賞 3年 荒谷 さん 2年 竹内 さん